

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和 7 年 9 月
NO. 4

厳しい残暑が続きますが、その中でも少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。
秋は様々な形で私たちの生活に実りを与えてくれます。
「芸術の秋」、「スポーツの秋」、そして「読書の秋」等と・・・
図書室には、そくそくと新着図書が入っています。
秋の夜長にぜひ読書を楽しんでほしいと思います。



新着本紹介



『ようこそ！富士山測候所へ』 長谷川敦／著 旬報社
書籍紹介：富士山での気象観測は 100 年以上前から始まる。その後、人工衛星など最新技術の発達でその役割を終え、測候所はいずれ解体される予定だったが、科学者たちが「ここでしかできない研究」を続けるため、富士山測候所の存続に立ち上がる。
第 1 部では富士山頂という過酷な環境で困難を乗り越え気象観測を行ってきた人々の物語。
第 2 部では最前線で活躍する科学者たちが富士山頂で行うさまざまな研究を紹介。

『凄じ山梨その魅力と底力』 堀内克一／著 文芸社
書籍紹介：天を突く高山が県境をぐるりと城壁の如く連なり、湧水が巖を研ぎ、里を潤す。その唯一無二ともいえる独特の地形が、豊かな山梨の暮らし、文化、産業を作り出している。本書は、そんな山梨独特の素晴らしい大自然の山々、野生の動植物、澄んだ水、高品質の農作物、芸術・文化、産業、そしてあたたかな人について、明快な俳句と詳細な解説で余すことなく紹介。山梨県のすべてがわかる大作。

『AI にはない「思考力」の身につけ方』 今井むつみ／著 筑摩書房
書籍紹介：「思考力」というと、なんだか難しいことのように感じられるかもしれない。しかし、私たちは今この瞬間に文章を読みながら、思考力を駆使している。そしてその時に頭の中で働いているのは、「推論の力」だ。この力は人間だけにあり、AI にはないものだ。その違いと謎を解き明かしていく。

『もしもミツバチが世界から消えてしまったら』 有沢重雄／著 旬報社
書籍紹介：こんなにも身近で、こんなにも知らない。
ミツバチにいま何が起っているのか驚きの生態と忍び寄る危機！
2006 年秋、アメリカで、一夜にして巣からはたらきバチが消える不思議な現象が発生した。これは蜂群崩壊症候群 (CCD) と呼ばれ、ヨーロッパ各地や南アメリカでも発生し、2007 年春までに世界でミツバチのコロニーの 4 分の 1 が消失したとされる。
いったいなぜこうした現象が起きたのか。

『なぜハーバードは虎屋に学ぶのか』 佐藤智恵／著 中央公論新社
書籍紹介：世界最高の知性が集まるハーバード大学経営大学院でいちばん人気のある研修旅行先は、日本。参加者に希望者を含めると 1 学年の全学生の 40%、全教員の 20% 以上が日本への研修に興味を持ったという。
なぜ、いま日本はこれほど研修旅行先として人気があるのか。
ハーバード大学経営大学院の授業や研修をもとに「ハーバードの教員や学生は日本から何を学んでいるのか」を解き明かす。

『僕には鳥の言葉がわかる』 鈴木俊貴／著 小学館
書籍紹介：古代ギリシャ時代から現代に至るまで、言葉を持つのは人間だけであり、鳥は感情で鳴いているとしか認識されていなかった。その「常識」を覆し、「シジュウカラが 20 以上の単語を組み合わせ文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者による科学エッセイ。動物学者を志したきっかけ、楽しくも激やせした森でのシジュウカラ観察の日々、鳥の言葉を科学的に解明するための実験方法などを軽快に綴る。

- ★『日記の練習』 くだうれいん／著 NHK 出版
 - ★『シン読解力』 新井紀子／著 東洋経済新報社
 - ★『音のない理髪店』 一色さゆり／著 講談社
 - ★『奇のくに風土記』 木内昇／著 実業之日本社
 - ★『13 歳からの進路相談』 松下雅征／著 すばる舎
 - ★『あこのころの僕は』 小池水音／著 集英社
 - ★『人生に効く英語で読む寓話』 戸田智弘／著 西東社
 - ★『高速読書』 上岡正明／著 アスコム
 - ★『ゆれる日本語、それでもゆるがない日本語』 塩田雄大／著 世界文化社
 - ★『高校生を考える 29 のエッセイと 48 冊の本』 千野政寿／著 百年書房
 - ★『一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書』 山崎圭一／著
- SBクリエイティブ など...

本校教諭千野先生です！
生徒からのリクエスト



やま読ラリースタンプカード配布！

図書室で本を借りたり、県内書店で 1,000 円以上本を買って
スタンプを 4 つ集めると、甲州印伝のオリジナルしおりがもらえる、
やま読ラリーを実施中！
図書室の本を借りた人にスタンプカードを差し上げています。

